

始業式の話「手ごたえのある2学期を」(2018.8.27)

2学期の始業式を迎えました。生徒の皆さんは1学期の終業式と同じように整然と整列し、ていねいにお辞儀をしてあいさつができています。夏休みから2学期への切り替えがきちんとできている証であり、葛西中の生徒は素晴らしいと、つくづく思います。

今日は、夏休みを振り返りつつ2学期の展望について話したいと思います。

夏休みが終わると、誰しも何かを怠けていたわけではなくても、「あっという間の夏休みだったなあ」「もう少し休みがほしいなあ」と思うものです。

人それぞれに部活動に汗を流してがんばったり、普段できないことを行ったりなど、それなりに充実していたはずですが、また、学期中と違って、少しのんびりしてものを考えたりした時間も有意義だと思えます。それでも「あっという間の夏休みだったなあ」「もう少し休みがほしいなあ」と思うのは、見方を変えると「もっと手ごたえがほしかったなあ」「もっといろいろなことにチャレンジしたかったなあ」と言い換えることができるのではないのでしょうか。それは前向きな考えや意欲の表れであると思います。

2学期が始まりました。今度は、約4か月という長さある2学期をどのように過ごすか、ということを考えてください。4か月後の12月下旬は木枯らしがすでに吹いている寒い時期です。夏休みを終え、もっと手ごたえがほしいと思った気持ちを2学期に生かし、2学期の終業式には皆さん一人一人が「手ごたえのある2学期だった」と、充実した2学期の日々を振り返ることができることを期待しています。

(校長 内野雅晶)